

# 賀 正

## 【澆刺颯爽と】

はつらつさつそう  
合掌 皆様新年明けましておめでとう御座います。皆様におかれましては、素敵な初夢と共に新しい年を迎えられた事と存じ上げます。

新しい年の初めに、こうして「人生ハンド仏句」を通して皆様とお会いできること、本当に嬉しく思います。この「人生ハンド仏句」を発行させて頂く様になって、本紙で早くも10号目になりました。いやゝ時の経つのは本当に早いものです。実はこの「人生ハンド仏句」を発行するにあたり、当初はこうでした。

**住職** 「この機関紙ほどのくらしい割合で発行しようか？先代の時にも発行した事があるんだけど、あれは確か、年に一回の割合で発行していたと思うんだけど」

母「でも年に一回っていうのもねえ。折角出すんだったら毎月じゃないかな？」  
何も知らない私「そんなタラタラ

やるんじゃなくて、やるからには月2回は発行しなきゃ」

**住職** 「エッ！月2回なんて書いてたら3ヶ月もてばいい方だぞ…(笑)」  
母「それじゃ決まり！私が責任を持つて編集するから月1回の割合でやろう」

私「そっか、じゃあしようがない。取り敢えず始めてみて、物足りないようなら月2回でね…」

そんなこんなやりとりがありました(笑)。今振り返ると、何も知らない私は本当に恐ろしい事を言っていたな(苦笑)と、なんとか私の少ない智慧を振り絞って、10号目を迎えた今、つくづく思います。

これも偏に、一読して感想を下さる皆様のお陰であると、心底感謝しております。本年は是非皆様の中から、自薦他薦問わず投稿を寄せて頂き、益々実りある「人生ハンド仏句」にしていきたいと思っておりますので、倍旧の御指導を宜しくお願い致します。

少し挨拶が長くなりましたが、ここで私が感銘を受けた「**心田を耕す**」というお話を紹介します。

【近所に、それほど大きくはないが手入れの行き届いた庭を持つ家があった。植木も綺麗に手を加えられ、季節の花々がいつも、彩り鮮やかに咲き、道行く人の目を楽しませ、心を和ませていた。

ある日突然、その家の主人であった人が亡くなり、若い夫婦が二人、その家に住むようになった…。それから数ヶ月、道行く人の目を楽しませていた庭は、みるみるうちに荒れ果て、無残な姿になった。

同じ庭がこうも変わってしまうのか、一種悲しいような思いで、その庭を道すがら、眺めている。】

《心の時代》と言われています。私達の「心」も、この庭と同じです。手入れの行き届いた心で、周囲の人達に元氣や勇気を与えることが出来ているでしょうか？はたまた荒れ果ててはいないでしょうか？

「心」というものは、大自然の生物や植物に似ています。雑草は放っておいても瞬く間に茂ってしまふ。しかし美しい花は、水を与え、肥料をやり、虫を除き、丹精込めて育てなければ花開きません。

私達の「心」もそれと同じです。放っておくと雑草が生えてきます。心の花を咲かせる為には、絶えず自分の心を見張り、雑草を抜き取らなければいけません。

二宮尊徳は「あらゆる荒廢は人間の心の荒蕪こうぶから起こる」と言う。

そして、心を荒れ放題にしないためには絶えず、心の田んぼ、つまり心田を耕さなければならぬと説いておられます。

はつらつさつそう  
澆刺颯爽はつらつさつそういつでも気持ちよく

やかにし、いつも颯爽とした気分である。澆刺颯爽こそ、心の雑草をとり、心に綺麗な花を咲かせるのでしよう。

前向きに、そして明るく、澆刺颯爽とした自分になる為に、「南無妙法蓮華經」という、確固たる信仰的支柱を据えることが必須の条件と言えましよう。

西暦2003年。今年一年のスタートに、澆刺颯爽と「南無妙法蓮華經」を唱え、新しい陽気を呼び込みましよう。

合掌 副住職 谷川寛敬